

令和7年度

回覧



出雲サンサン保育園子育て支援事業



“サンサンへ行こう!!”

2026年2月

冷え込みの厳しい日が続いていますが、晴れた日には戸外へ出て、短時間でも日に当たる時間を大切にしながら元気いっぱい体を動かして過ごしています。大人が身を縮まる寒さの中でも、遊びたい気持ちが勝つ子どもたちは追いかっこを楽しんだり、雪が積もった日には大興奮で冬ならではの遊びを満喫しています。

♪くるっと回してコマ遊び♪

最近、園ではコマ遊びに夢中になっている子どもたちです。正月遊びとして楽しんでいたコマがきっかけとなり、日々の遊びの中で「もう一回やりたい」「次はどうやったら回るかな…?」と繰り返し挑戦し、楽しんでいます。年齢や発達に合わせて、素材や形の異なるコマを用意することで、それぞれが自分のペースで回すことを楽しみ、回った喜びや達成感を味わっています。

中でも木のコマは憧れの存在で、お兄さん・お姉さんの遊ぶ姿に刺激を受け、そばで真似をしながら回す子もいます。年齢を超えて関わり合う中で、遊びの広がりや成長を感じます。

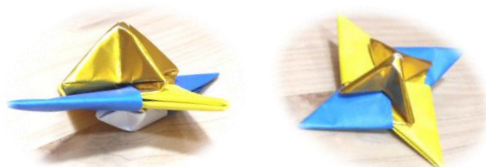
コマの紹介

【2歳児のコマ】



牛乳パックにシールを貼って飾りつけをした回しやすい手作りコマを使い。回る様子をじっと見つめています。

【4歳児のコマ】



折り紙で手裏剣を折り、保育士と一緒に仕上げたコマで、遊びを広げています。

【5歳児のコマ】



木製のコマに挑戦し、何度も繰り返しまわしながら腕を磨いています。

節分行事で鬼に変身☆

2/3 の節分会は各クラスで作った鬼の衣装を着て楽しみました。2歳児は鬼のパンツや花紙で帽子を作り、かわいい鬼に変身!!「みてみて〜!」と嬉しそうに見せ合いながら、自分で作った衣装を身につける子どもたちです。鬼と戦い、節分ならではのひとときを過ごしました。



2月のサンサンへ行こう!

運動遊びでたくさん体を動かして、楽しみましょう♪

- ・日時: 2月26日(木) 9:30~10:30
- ・持ち物: 着替え、タオル、水筒(水分補給)



参加希望の方は、保育園までご連絡ください。

TEL: 0853-43-7033

令和7年度

回覧



出雲サンサン保育園子育て支援事業



子育て相談の日

2026年2月

- 相談日
- ★第1・第3木曜日 9:15~15:00
 - ★土曜日（事前に連絡してください）
 - *上記以外でも気軽にお電話ください
 - ★神西ふれあい子育てサロン『すくすく相談日』には、保育園の職員も出向く予定です。

【連絡先】
出雲サンサン保育園
☎ 43-7033

暦の上では春になりましたが、まだまだ寒い日が続いています。この厳しい寒さを乗り越えれば、春の訪れまであと少し。寒さや風邪などのウイルスに負けず、元気に春を迎えたいですね。

誤飲と誤嚥について

誤飲とは、食べ物以外のものを誤って口から摂取することを言い、誤嚥とは、食べ物や飲み物が本来流れるべき食道ではなく、気管に入り込んでしまうことを言います。

誤飲や誤嚥は、子どもに多く見られる事故の一つです。乳幼児の場合、口に入る最大のサイズは直径 39mmとされています。（トイレットペーパーの芯や大人が親指や人差し指で作った“丸”とほぼ同じです）トイレットペーパーの芯などを通るものは口に入り込む可能性があり、場合によっては命に関わることもあります。そのため大人の認識と注意が最も重要です。また、環境づくりなどに気を配って事故を防ぐのと同時に、万が一に備えて適切な対処法を知っておくことも大切になります。



誤嚥事故が多い食べ物・予防のポイント



乳幼児の子どもは、まだ嚥下機能が未熟で、噛む力も不十分です。誤嚥による事故は生後8ヶ月から4歳頃までが最も多いと言われています。また、歯が生え変わる時期（6歳から8歳くらい）も噛む力が弱まるので注意が必要です。

- ◎丸く・つるっとしたもの ◎硬く噛みきりにくいもの
- ◎粘着性が高く、唾液を吸収し飲み込みづらいもの

- ・子どもに合わせて、食品を小さく切りましょう。
- ・遊びながら、歩きながらはやめ、椅子に座って良い姿勢で食べましょう。
- ・食事中は、大人がそばにいて、口の中に詰め込みすぎたり、押し込みすぎたりしないかなど様子を見てあげましょう。また、しっかりとよく噛んで食べることの大切さを伝えましょう。
- ・食事中に「眠くなる」「泣く」場合は、通常の咀嚼や嚥下ができない状態です。口の中に食べものが残っていないか確認し中断しましょう。
- ・食事中は、喉のすべりをよくするために、水分を適度に摂りましょう。

誤飲事故が多いもの・予防のポイント



体の動きが活発になる生後6ヶ月から3歳頃に誤飲が起こりやすいです。特に、手にしたものを何でも口に入れてしまう1歳前後が最も多いと言われています。

- ・子どもの成長によって広がる行動範囲を把握しながら、危険なものは手が届かない場所や鍵のかかる場所に保管しましょう。
- ・上の子どものおもちゃには特に注意しましょう。

※マニキュアや除光液、防虫剤、また洗剤のように「酸性」「アルカリ性」と書かれている製品は誤飲しても吐かせてはいけません。毒性が強く、消化管粘膜の損傷をひどくしてしまったり、痙攣や肺炎を引き起こしたりなど状況がより悪化する危険性があります。すぐに受診しましょう。



もしも、誤飲誤嚥をきっかけに窒息をした場合、窒息状態になると、たった数分で呼吸が止まり、心停止してしまう可能性があります。すぐに救急車を呼び、救急車が来るまでの間、詰まったものを吐き出させるための応急処置をすることが非常に重要です。

- 0歳児 …「背部叩打法」「胸部突き上げ法」を5回ずつ交互に行う
- 1歳児以上…「背部叩打法」「腹部突き上げ法」を5回ずつ交互に行う
- ※あくまで目安であり、異物が除去できるまで継続します

- 異物が除去でき、呼吸をし始めた場合。
 - 意識確認する。横向きに態勢を変え、呼吸が続いているか定期的に確認する。
- 異物は除去できたが、呼吸や意識がない場合。
- 処置中に反応（意識）がなくなった場合。
 - 直ちに心肺蘇生を開始する。